

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果(○)と課題(▼)	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育方針】 ※真理を求め正義を愛する心身の健全な人となること(健全) ※進取敢為の性と明朗闊達な風とをもつ人になること(明朗) ※敬愛と誠実の心をもって社会に生きる人となること(誠実) 【教育目標】 Global&Aware(世界へ、思いやりをもって) 【スクール・ミッション】 附属中学校を併置し、普通科を設置する高校として、国際交流や先進的な探究授業を教育の柱として、高い国際感覚や情報発信能力を身に付け、主体的・協働的に新たな価値を創造し、国際社会で活躍できる人材を育成する。	【成果】 ○学校行事の充実により、生徒評価で「学校生活に満足している」生徒は前年度より大きく増加した。 ○オーストラリアからの留学及びフランスとのオンライン交流により、グローバル教育の充実と地域への発信ができた。生徒評価で「海外との交流を積極的に行っている」と答えた生徒は90%を超えた。 ○ICT活用やパフォーマンス課題を充実させ、授業改善や多面的な評価ができた。「授業がわかりやすい」と答える生徒は80%を超えた。 ○希望進路の実現のため、多様な進路・進学先への対応を行った。「進路に関しての適切な情報を提供している」と答えた生徒は80%を超えた。 ○教育相談会議や個別の支援会議、いじめ対策会議の中で情報共有に努め、支援方法を検討し、組織的に対応できる態勢を強化できた。 ○校舎及びトイレの改修により、学習環境の改善ができた。 【課題】 ▼受験者数は増加したが、募集定員は満たさなかった。スクール・ポリシーの具体化と効果的な広報が重要である。 ▼生徒アンケートで「先生は悩み等に親身になって対応してくれる」と答えた生徒は70%を超えず、「部活動が活発である」と答えた生徒は約半数にとどまった。引き続き、安心して生活できる学校づくりとともに学校生活を充実させることに取り組みたい。	(1)スクール・ポリシーの具体化と中高一貫教育の改革を推進する。 (2)各教科でのグローバルな視点を取り入れた授業や日本の伝統と文化を学ぶ授業、海外の学生との交流活動を推進する。 (3)答えのない課題に取り組み、ICTを活用して自分の考えを相手にわかりやすく表現する教育活動を行う。 (4)グローバルな視点や科学的な思考力を基盤としながら新たな価値を創造する教育活動を行う。 (5)多様な考え方を認め、多くの人と繋がり、協働しながら集団の意見をまとめる能力を養う (6)人権尊重を基盤とした社会生活で必要となる資質・能力を身につけるための生徒支援、学校行事や部活動の充実、生徒が主体的に学校生活を充実させる態度を育成する。 (7)安心・安全を感じられるホームルーム運営と教育相談・支援体制をさらに充実させる。 (8)積極的な情報公開等による小・中学校や地域との連携を推進し、地域の力を教育活動に取り入れるとともに地域の活性化に寄与する。

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価	成果と課題 次年度に向けての改善点
組織・運営	中高一貫教育の充実	高等学校と附属中学校がさらに連携を深め、6年間を通した指導計画及び指導体制のもと教育内容やカリキュラムを充実させ、附属中学校の志願者増を目指す。	B	B	4
	国際理解教育の推進	フランスの高校やオーストラリア姉妹校等との連携強化、来日受入を行い、オーストラリアへの語学研修を再開し、Area Studyや探究学習を柱とした「園部式グローバル教育」を推進する。	B	A	
	特色ある教育内容の発信	パンフレット、ポスター、ホームページ、For the FUTURE、学校説明会等を十分に活用して、園部高校の魅力ある情報を発信し、募集定員を満たす。	B	B	
学習支援	学習習慣の定着	予習・授業・復習等、日々の学習を通して家庭学習や自主学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図るとともに、継続させる。	B	B	4
	学力の向上の取組	コースの特色に応じた課題を設定し、言語活動を充実させるとともに、コミュニケーション能力の向上を図り主体的に学習に向かう姿勢を養う。	B	B	
	授業改善の取組	パフォーマンス課題の効果的な設定や観点別評価を意識した授業を計画し、授業改善に繋げる。	B	B	
	ICT教育の充実	BYODに対応したタブレットの有効な活用を進め、わかりやすく、知的好奇心を高める授業を通して学力向上を図るとともにデジタル人材育成のための施設及び教育内容の充実を図る。	B	A	
生徒支援	基本的な生活習慣の確立	朝の遅刻や授業の無断欠課に対して個別指導を行い、規則正しい生活習慣が身に着けられるよう指導し、落ち着いた授業を受けられる環境をつくる。	B	B	4
	主体的に学校生活を送る態度の育成	生徒会活動、学校行事や部活動に主体的に参加する態度を育成し、充実した学校生活を送れるよう働きかける。	B	B	
	生徒指導の徹底	いじめ等のトラブルに対し、迅速かつ組織的に対策を講じる。また、問題行動の未然防止のため、生徒の些細な様子の変化を見逃さない。	A	A	
	教育相談・特別支援教育の推進	教育相談会議を中心に、個別の生徒の支援を検討し、改善に繋げる。また、必要に応じて積極的に外部機関と連携し、支援が円滑かつ効果的に進むよう努める。	A	A	

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価	成果と課題 次年度に向けての改善点
進路支援	コースの特色を踏まえ、個に応じた適切な進路支援	進路行事や説明会等について、学年部と連携しながら各学年、コースの状況や課題を踏まえ、最大限の効果が得られるように工夫する。模擬試験や各種アセスメントのデータ分析を行い、効果的に活用することで適切な進路指導に繋げる。	B	B	4
	生徒の主体的な行動を促す進路支援	多様な進路に対応する情報を収集し、生徒一人一人がこだわりを持った主体的な進路選択ができるよう、その実現を図る支援を充実させる。	B	B	
	高大接続、新入試制度研究の継続	今後も変化する入試制度や高大接続が円滑に進むよう最新の情報収集を行う。特に、新課程入試1年目に向けて情報提供や入試対策に力を入れる。	B	B	
人権教育	人権教育の推進	学年ごとにテーマに応じた人権学習を年2回実施し、人権問題の実態と人権問題に対する適切な理解と認識をもち、人権問題に対する実践的態度を育成する。	B	B	4
	人権意識の高揚	すべての教育活動を通して、人権を尊重する心を育む。また、多様性を認め合える意識の醸成を図る。	B	B	
図書館活用	読書活動啓発のため、広報や図書館行事の企画運営を効果的に行う。	授業・調べ学習・学校行事等で活用できる資料の収集と提供を行う。また、図書委員会を中心としたイベントの企画運営を行い、図書活用を促す図書資料の紹介広報に努める。	B	B	4
健康・安全教育	健康教育の充実	本校生徒の健康課題(体の健康と心の健康)に応じた健康教育を推進する。	B	A	4
	教育相談の充実	教育相談会議やケース会議を基盤として、生徒の状況や特性の理解を深め、SCによるカウンセリングを活用しながら、組織的に適切かつ具体的な支援を進める。	B	A	
管理	学校運営への効果的な支援	適時、適切な予算執行、他分掌等との調整をととして、学校運営への効果的な支援を図る。	B	B	4
	学習環境の整備充実	施設・設備の安全の確保・充実・適時の就学支援をととして、生徒の学習環境の向上を図る。	B	B	
家庭・地域連携	家庭や地域社会との連携の強化	家庭・地域社会との適切な連携に努めると共に、小高・中高・高大連携の充実を図るとともに地域の活性化に向けた取組を行う。	B	B	4
学習環境安全管理	安心・安全で充実した教育活動のための施設設備の充実	校舎や設備の安全を確保し、生徒の学習環境の向上に繋がる施設設備の充実を図る。	B	B	4
学校関係者評価委員会による評価	コロナ禍の影響がほとんどなくなり、園部高校の特色である国際交流活動や探究活動が年間を通して活発に行われたことで、生徒の学校に対する満足度が上がっていることは評価できる。学校での生徒の頑張りや、地域の方にわかるような工夫をするこ とで、地域に開かれた学校を目指してほしい。また、部活動等の活性化を図り、地元の中学生在が通いたいと思えるような学校を目指し、募集定員を満たすことが望まれる。				
次年度に向けた改善の方向性	今年度実施してきた、国際交流活動や大学等と連携した探究活動をさらに活性化し、生徒が多様な考え方や言語・文化の違いを尊重し、正しい知識や情報を基に自分の考えを導き、主体的に発信する力を育てることで、スクール・ミッションを実現してい きたい。また、校内の施設・設備等を改善し、生徒の学習環境の向上に努めたい。				

評価数値の見方(後期)	
A	目標が十分達成され、効果を上げている。
B	目標が計画通り実施され、一定の効果が上がっている。
C	計画通り実施できているとは言えず、あまり効果が上がっていない。
D	実施がかなり不十分である。

評価数値の見方(総合評価)	
4	全項目がB以上である。
3	2項目がB以上である。
2	1項目がB以上である。
1	B以上である項目がない。